

宮崎
03.4.16
目次



発送番号 119476

発送日 平成15年 4月15日 1 / 2

拒絶査定

特許出願の番号 特願2001-034984
起案日 平成15年 4月 4日
特許庁審査官 清水 稔 3248 5W00
発明の名称 弹性表面波装置及びその弹性表面波装置の周波数
調整方法
特許出願人 株式会社村田製作所
代理人 宮▼崎▲ 主税

この出願については、平成15年 1月 7日付け拒絶理由通知書に記載した理由によって、拒絶をすべきものである。

なお、意見書及び手続補正書の内容を検討したが、拒絶理由を覆すに足りる根拠が見いだせない。

備考

請求項：1～5

出願人は、意見書において、「(1) 本願請求項1に記載の発明では、IDT及び反射器がA1よりも質量の大きい金属及び該金属を含む合金からなるために生じる、中心周波数が大きくばらつくという課題を、ボンディングワイヤがIDTの上方及び反射器の上方の領域の双方を経由しないように配置し、周波数調整を高精度に行うことを利用したことにより解決したものであるが、引例1には、そのような技術的課題は何ら示されていない。(2) また、第1、第2の縦結合共振子型弹性表面波フィルタが接続された構成を有する弹性表面波装置においては、電極パッドの配置及びボンディングワイヤの接続は、通常、ボンディングワイヤは反射器の上方を通過せざるを得ない構成となっている。」と主張している。

しかしながら、

(1)について、引例1の特許請求の範囲、及び、第2項目左欄第48～50行目には、A1よりも質量(密度)の大きい金属を用いることにより、膜厚変化量に対する周波数変化量を大きくすることができる旨記載されているのであるから、A1よりも質量(密度)の大きい金属及び該金属を含む合金をIDT及び反射器に用いた場合には、同様の理由により、中心周波数が大きくばらつくであろうことは、当業者が容易に想到しうることである。

(2)について、第1、第2の縦結合共振子型弹性表面波フィルタが接続され

1
03.4.21
不審

た構成を有する弾性表面波装置において、「ボンディングワイヤが、前記弾性表面波素子のインターデジタルトランステューサーの上方及び反射器の上方の領域の双方を経由しないように配置される」構成を有するものは、周知の技術（例：特開平6-224678号公報第5図等参照）であるから、引例1においても、その様な構成とすることは、当業者が容易に想到しうることである。

よって、出願人の意見は採用できない。

上記はファイルに記録されている事項と相違ないことを認証する。

認証日 平成15年 4月15日 経済産業事務官 塚本 佳雅

